

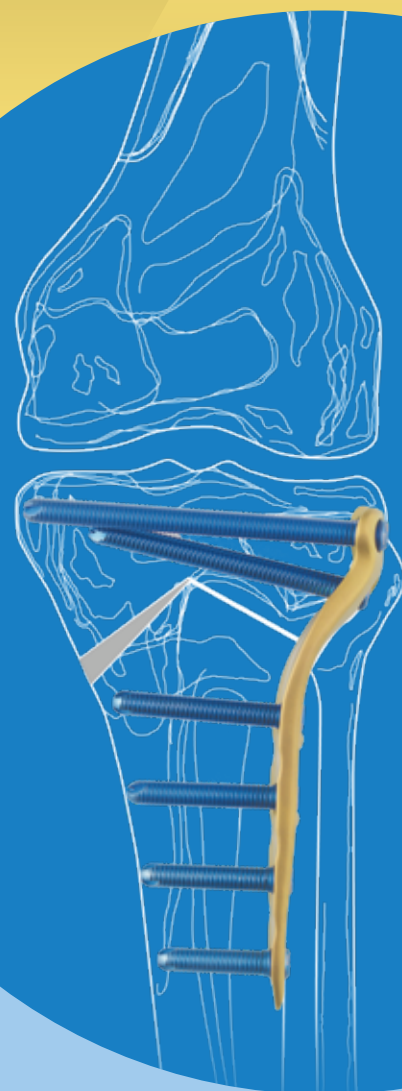
逆V字型高位脛骨骨切り術の 手術理論、成績、および応用

期日 | 2022年6月18日(土) 12:00~13:00

会場 | 第1会場 1階 特別会議場
(札幌コンベンションセンター)
北海道札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1

座長 | 西宮回生病院 整形外科 顧問
吉矢 晋一 先生

演者 | 八木整形外科病院
名誉院長兼附属スポーツ医学・関節鏡センター
センター長
安田 和則 先生



※現地開催に加えオンデマンド配信も行います。詳細は大会HP をご覧下さい。

日本整形外科学会 教育研修講演の単位が取得できます。

(受講料 1講演1,000円)

・専門医資格継続単位(N)1単位必須分野:12.膝・足関節・足疾患

抄 録

「逆V字型高位脛骨骨切り術の手術理論、成績、および応用」

逆V字型高位脛骨骨切り術(iV-HTO)は北大病院で30年間に渡って行われてきた安全な術式であり、その原理と長期成績は既に報告されている(JBJS-Br 2006)。この術式は、(1) 矯正の中心が変形中心に近い、術後の膝蓋骨位置異常、脚長差、骨質欠損等が起こらないので矯正量に限界がない、(2) 骨切り面の嵌合構造によって骨癒合が良好、等の特長を有する。しかし原法の創外固定には看過できない欠点があり、我々は2017年から外側 Locking compression plate (LCP)で固定するiV-HTO術式の開発を進めてきた(Arthrosc Tech 2018, 2020)。現在、本術式はLCPを用いて術前計画通りの術後矯正角を正確に得ることができる手技や、完全な骨癒合を3か月以内にほぼ100%の症例で獲得できるplating方法の開発等によって、ほぼ完成に至っている。本講演ではLCPを用いたiV-HTOの手術理論と術式、臨床成績、およびこの術式を応用した臨床的挑戦の現況を概説する。